

小繋事件百周年、記念碑除幕
幕張メッセと武器見本市

「幸福感」を感じる子ども期を地域・学校・家庭で

立花 健雄
金光 理恵
土屋匠宇三

129 126 120

★映画「わが青春つきるとも——伊藤千代子の生涯」上映運動コーナー

羽瀨三良／桂壮三郎／宮地さか枝／畠山忠弘／辻 修／小池莊市／大城辰彦

133

同盟活動シリーズ

今につながる治安維持法体制に決着を

——私の語る「国賠同盟」の意義——

なぜ同盟員総学習運動に取り組むのか

——山形県同盟の直面している組織状態と展望

小松 実

148

前進しつづける埼玉県同盟

瀬野 幸男

150

伊藤千代子の志を受けつぎ、越後・上越から大きな平和の世論を

大野 辰男

152

田中 徳光

155

★会員交流

読者ハガキから

編集後記

※表紙版画（小樽港を望む） 景川弘道 文中カット・菱谷良一・藤沢信子・中田 進

■巻頭論文

「安保三文書」に意図する軍拡・「戦争する国」づくり
——岸田政権の危うさ

日本体育大学教授・憲法学者 清水 雅彦

はじめに

岸田政権は昨年（二〇二二年）一月一六日、「安保三文書」（「国家安全保障戦略」「国防衛戦略」「防衛力整備計画」）を閣議決定した。歴代自民政権は、憲法九

この先には矛盾の解消のための改憲がある。党内基盤の弱い岸田首相は党内第一派閥の安倍派の支持を得る必要があるため、改憲など安倍政権路線を継承している。首相になってやりたいことがあった安倍首相と異なり、首相になることが目的化している岸田首相に、ハト派の宏池会だからという期待はすべきではない。

本稿では、まず憲法九条の理念とその形骸化を見た上で、「安保三文書」の中の特に「反撃能力（敵基地攻撃能力）」と防衛費GDP比二％問題について考察したい。



清水雅彦氏

条の理念に反する政策を推し進めてきたが、この「三文書」はさらに憲法九条との矛盾を大きくするものである。だからこそ、